

職員全体勉強会

日 時: 2026年7月15日(水) 13:15~14:00

7月には

放射線安全管理

講 師: 木下病院 病院長 木下雄介



医療安全研修の放射線安全管理について、日本医師会監修のビデオを視聴しました。

診療用放射線の安全利用の研修 (動画名略称: 2023年版A)

※ 動画のABCは、講義内容は同じで、質問内容が異なります。

※ 2020年版と2023年版では講義内容が異なります。
(どの動画でも研修でのご利用に問題ございません。)

令和4年度 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
「放射線診療の発展に対応する放射線防護の基準策定のための研究」
松原孝祐、稲木杏史、郷田紗弥香、作原祐介、藤瀬俊王、細野 真

研修内容

1. 医療被ばくの基本的な考え方
2. 放射線診療の正当化について
3. 医療被ばくの防護の最適化について
4. 放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する事例発生時の対応等について
5. 放射線診療を受ける者への情報提供について

この動画は、医療法施行規則において規定されている「診療用放射線の利用に係る安全管理のための研修」を医療従事者に実施する際に用いていただくために作成されたものです。



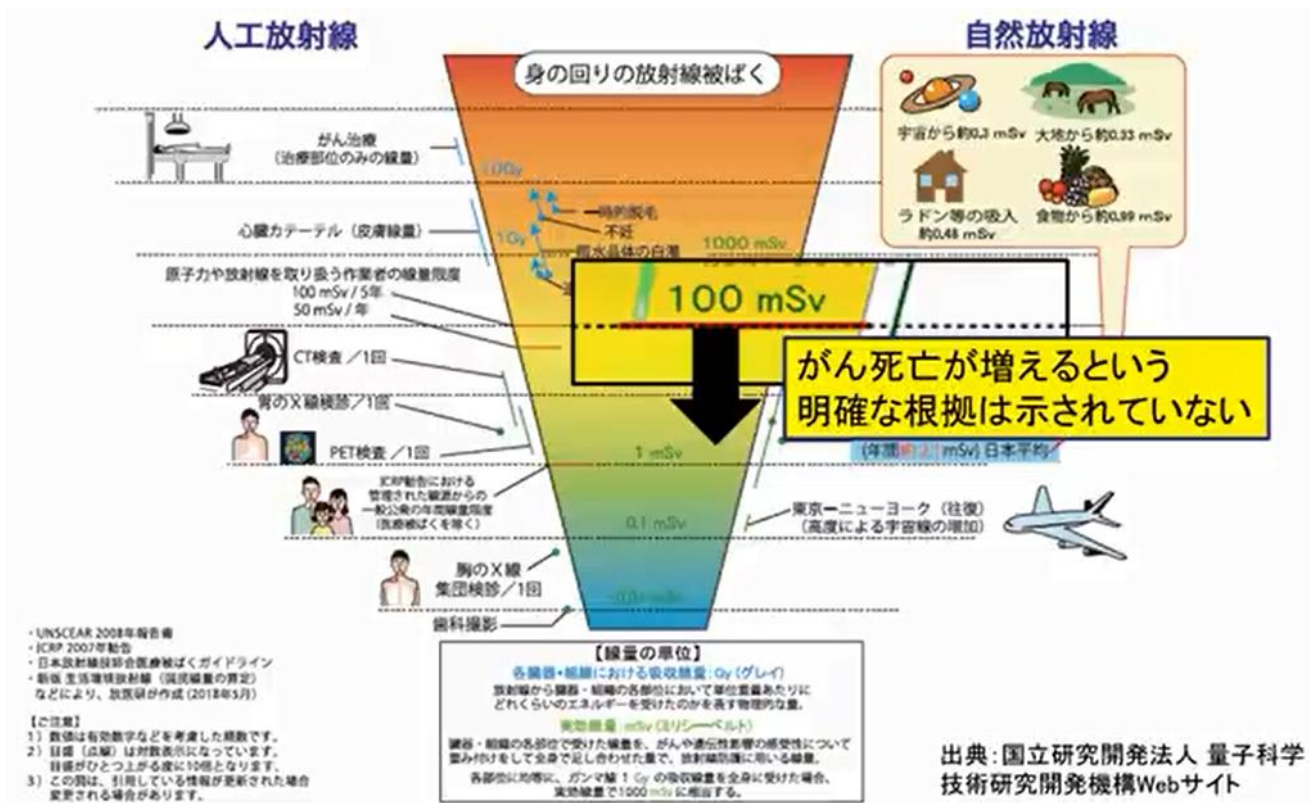
放射線の単位

mSv (ミリシーベルト) とは、人が放射線を受けたときに、その放射線が人体に与える影響の大きさを表す単位です。1 mSv は、基本単位である 1 Sv (シーベルト) の 1000 分の 1 にあたります。

人が日常生活で自然界から浴びる放射線量は世界平均で年間約 2.4 mSv ですが、日本では検診などの医療用放射線も含めて年間約 2 mSv~3 mSv 程度とされています。日本の法律では、一般の人が日常生活で、追加で浴びる放射線の限度を「年間 1 mSv」と定めています。

身体への影響がある単位と数字は？

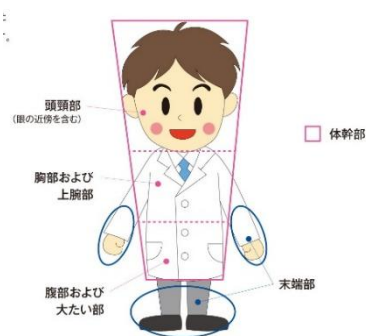
健康に影響があるかどうかを判断する一つの目安とされている数値が 100 ミリシーベルトです。100 ミリシーベルト以下で発がんの確率が増えるかどうかは科学的に判明していません。がんの原因に、ウイルスや大気汚染、ストレス、食習慣、飲酒、喫煙などさまざまなものがあり、少量の放射線による発がん影響はこうした他の原因による影響に隠れてしまうくらいの大きさだからです。



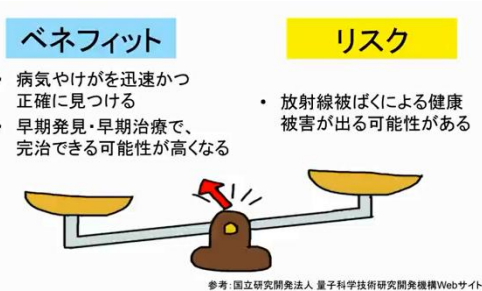
医療従事者は、医療被ばくを受けないためには、撮影時の補佐が必要なときは、必ず、放射線防護エプロンと放射線バッジ（個人線量計）を装着しましょう。



放射線防護エプロン



放射線バッジ（個人線量計）
着用位置



放射線を照射することで、早期発見・早期治療できるベネフィットがありますが、放射線被ばくによる健康障害がでるリスクもあることが、よく理解できました。